

けもの No. 04

ニホンジカ

環境破壊危険度

★★★★★

体長：90～190cm 程度
 体重：50～130kg 程度
 嗅覚：とても優れている
 聴覚：とても優れている
 視覚：視野が非常に広い

けもの新聞

The Wildlife Times



喜多方市鳥獣被害対策実施隊が
 お送りする野生鳥獣に関する情報紙です。
 「けもの新聞」アンケートを実施しています。



ニホンジカの生態

- ・自然環境下での寿命は4～8歳
- ・繁殖力が高い（1歳以降、ほとんどのメスが妊娠し毎年1頭生む）
- ・草食性で草、葉、樹皮、果実、キノコ、イモ類など1000種類以上の食物を摂取する
- ・1mを超える跳躍力
- ・オス鹿は毎年生え変わる角がある
- ・特定の縄張りを持たず、食べ尽くと別の場所に移動する
- ・薄明薄暮性（主に明け方や夕暮れに主に活動する習性）
- ・基本的に雌雄別の群れで行動する
- ・繁殖期にはオス1頭、メス複数頭のハーレムを形成する

全 国的に生息数を増
 加・生息域を拡大さ
 せているニホンジカ。環境
 省によると1978年度、
 2018年度までの40年間
 で、生息域は約2.7倍に拡大
 しており、個体数は約19
 0万頭と推定されています。
 シカの恐ろしさは、農作
 物被害にとどまらず、里山
 などの環境そのものを破壊
 しかねない危険性をはら
 んでいる点にあります。
 増えすぎたシカの群れは、
 山の植物を食べ尽くしなが
 ら次々と移動していきま
 す。するとその山は、シカの好
 まない植物だけが残し、生

態系そのものが変わってし
 まいます。さらに、土地が
 痩せ地盤が緩み、土砂崩れ
 などの災害を引き起こすリ
 スクが高まります。
 市内の捕獲頭数は、令和
 元年度0頭だったのに対し
 令和6年度には32頭とな
 りました。これまで市内では
 ほとんど目撃することはあ
 りませんでした。少しずつ
 目撃・捕獲の件数が増加
 している状況です。
 世間では、人的被害があ
 るため、クマの話題が注目
 されがちですが、「シカの
 脅威の方がよほど深刻であ
 る」という指摘もあります。

迫る、ニホンジカの足音

要注意なけものたち…



けもの No.05 【ハクビシン】

- ・ 60cm 程度/6kg 程度
- ・ トウモロコシや柿、ブドウなどの食害する
- ・ 夜行性で樹上生活者
- ・ 家屋屋根裏に住み着き、糞・尿による被害報告が多い



けもの No.06 【アライグマ】

- ・ 50cm 程度（タヌキに似ている）
- ・ 北中米原産の特定外来生物でペットが野生化したもの
- ・ 近年はほぼ全国的に分布しており、家屋内への侵入がしばしば問題になる
- ・ 果物などの農作物への食害あり



けもの No.07 【イタチ】

- ・ 40cm 程度（オスの方が大きい）
- ・ 畜舎・養魚池、農作物への加害
- ・ 人家に住み着くこともある

けもの No.08 【アナグマ】

- ・ 50cm 程度（尾は短くずんぐり体系）
- ・ 土に穴を掘って生活。その穴が建物の土台を崩してしまうことも…



けもの No.09 【タヌキ】

- ・ 60cm 程度（体毛長くずんぐり体系）
- ・ 集落のごみ捨て場を荒らすことも…



「久しぶりに実家に帰ったら屋根裏に獣が住み着いている：」「どうやら空気が寄せられることがありますが。環境の変化は山の中だけで起きているわけではありません。市街地であつても、放置された土地や建物など、人の手の行き届かなくなつた場所は、野生動物にとつて住みやすい環境となります。野生動物に就て、人の生活圏を寢床にすることは「天敵がいらない」などのメリットがあります。小型・中型の動物は、農作物を荒すだけでなく、屋根裏や床下に侵入し、そこを寢床にすることがあります。そこで糞・尿などを溜め込むことで、建物の腐食が進み、場合によっては天井の崩壊など、深刻な被害につながることもあります。さらに、悪臭や害虫の発生、騒音、アレルギーの誘発など、私たちの生活を直接的に脅かす存在と成り得ます。こうした被害を防ぐためには「侵入させない」「し

つかり守る」といった対策が最も有効です。少し極端な例えですが、野生動物への対策は「泥棒（防犯）対策」と同じです。大切なものを奪われないよう、壊されないようにするためには、日ごろからセキュリティを整えて侵入を防ぐことが基本となります。泥棒を働いた人間は逮捕され、被害をもたらした動物は捕獲されます。しかしこれらは、あくまで「対症療法」に過ぎないのです。私たちは、日ごろから新聞やテレビなどを通じて、犯罪の恐ろしさを知り、自然と防犯を意識しています。それと同じように、野生動物から生活を守るためにも、日ごろから「侵入させない」「寄せ付けない」という意識を持ち、備えていく必要があると言えます。野生動物との距離が近くなりつつある今、私たちの暮らしを守るためにも、「野生動物への備えを自然に心がける」そんな時代になつてきたのかもしれない。

大型動物だけではない、けものによる被害

発行日：令和8年10月1日（木）